

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されている害虫で、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木の内部を激しく食害する。県では、令和元年11月にかつらぎ町で初めて本虫による被害が確認された後、県北部で被害が拡大傾向であり、今後日高地方への侵入が強く懸念されている。

そこで5月24日～6月8日、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、クビアカツヤカミキリの侵入警戒のため、日高全域のサクラ樹植栽地85か所（計2,812本）を巡回調査（延べ48名参加）した。サクラ樹の主幹根元から4m位置まで、1樹ずつ調査を行ったが、クビアカツヤカミキリのフラス（幼虫の排泄物と木くずが混ざったもの）等の発生は確認されなかった。

また、ウメ園でも日高果樹技術者協議会によるウメ着果調査（4月下旬、5月中旬の2回、140園）と併せてクビアカツヤカミキリを調査したが、発生は確認されなかった。

今後も当課では、継続的にサクラ樹植栽地やウメ園の巡回調査を行うとともに、各市町やJAの広報紙の活用や防除啓発チラシの配布等により、生産者及び一般住民への啓発を行っていく。



クビアカツヤカミキリのフラス発生状況調査（御坊市、印南町）